

在スロバキア日本国大使館
政治・経済月報（2019年10月）

目 次

内 政

- ◆ 2020年国会総選挙関連報道 2
- ◆ ジャーナリスト殺害事件の裁判手続き 2
- ◆ 政党支持率調査結果 3

外 政

- ◆ ペレグリーニ首相の欧州理事会出席 3
- ◆ チャプトヴァー大統領の即位の礼出席，安倍総理との会談 3
- ◆ ライチャーク外務・欧州問題相の訪米 4

経 済

- ◆ ハード・ブレグジットがスロバキア経済に与える影響 4
- ◆ 国会による最低賃金引き上げの承認 5
- ◆ 平均賃金の上昇 5
- ◆ 中国とスロバキアを結ぶ鉄道貨物輸送の展望 6

別添：主要経済指標

※ 本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

内 政

◆ 2020年国会総選挙関連報道

【野党党首による会合（22日付スメ紙）】

21日、野党「プログレッシブ・スロバキア（PS）」／「共に（Spolu）」、「人々のために（Za ľudí）」、「自由と連帯（SaS）」、「普通の人々・独立した人達（OLaNO）」、「我々は家族（Sme rodina）」、「キリスト教民主運動（KDH）」の各党首等は、2020年国会総選挙後の協力に向けた会合を実施した。

PS／Spoluは、Za ľudíに対し、選挙前に政党連合を形成するよう申し出たが、キスカZa ľudí党首はこれを拒否した。キスカ党首は、「PS／Spolu, Za ľudíの3党のみで政党連合を組んだとしても政権交代は実現できない。より広範な政党連合を組む必要がある」と説明している。他方で、SaSやOLaNOは、政党連合の形成に否定的である。

【ハンガリー系政党の選挙協力合意撤回（24日付スメ紙）】

23日、「ハンガリー系コミュニティ党（SMK）」（国会に議席なし）は、「架け橋（Most-Híd）」（連立与党第3党）との選挙協力合意を撤回する旨決定した。SMKは、合意撤回の理由として、Most-Hídとだけでなく、国内全てのハンガリー系政党と選挙協力を行うべきであると主張している。

直近の政党支持率調査によると、SMKとMost-Hídの支持率は、国会議席獲得に必要な得票率5%を下回っており、両党が選挙協力をしない限り、いずれのハンガリー系政党も国会議席を獲得するのは困難であると予測されている。

◆ ジャーナリスト殺害事件の裁判手続き（22日付スメ紙）

21日、特別検察官は、昨年2月に発生したジャーナリスト・クツィアク氏及び婚約者クシュニーロヴァー氏殺害事件に関し、実業家コチネル氏他3名の起訴状を裁判所に提出した。警察は、犯罪行為を立証するために必要な証拠を既に収集したため、同事件の捜査を終了している。特別検察庁によると、コチネル氏等に有罪判決が出される場合、懲役25年あるいは終身刑が言い渡されることになる。

今年3月8日、コチネル氏は既に警察によって殺人依頼の疑いで起訴されており、現在拘留中である。コチネル氏は、有価証券偽造の疑いでも起訴されており、本件については既に公判が始まっている。

コチネル氏の他に起訴状を提出されているのは、殺人に直接関与したと見られるサポー氏及びマルチェク氏の他、殺人を依頼したと見られるジュジョヴァー氏の3名である。同事件の仲介役として起訴されていたアンドルシュコー氏

は、検察との司法取引に応じており、裁判で証言する可能性がある。

◆政党支持率調査結果（２８日）

世論調査機関Focusによる１０月の政党支持率調査の結果は以下のとおり（括弧内は支持率に基づいた議席数）。政党連合PS／Spoluと、SaSの支持率が下落した一方で、Za ludiの支持率が上昇した。

政党	Focus	2016年選挙
Smer-SD（方向・社会民主主義）	22.0% (39)	28.3%
PS／Spolu(プログレッシブ・スロバキア／共に)	11.0% (20)	—
LSNS（我々のスロバキア）	10.2% (18)	8.0%
Za ludi（人々のために）	9.1% (16)	—
Sme rodina（我々は家族）	7.2% (13)	6.6%
SNS（スロバキア国民党）	6.9% (12)	8.6%
KDH（キリスト教民主運動）	6.5% (12)	4.9%
OLaNO（普通の人々・独立した人達）	6.0% (11)	8.6%
SaS（自由と連帯）	5.2% (9)	12.1%

外 政

◆ペレグリニ首相の欧州理事会出席（１７～１８日）

ペレグリニ首相はブリュッセルで行われた欧州理事会に出席し、英国のEU離脱やEU拡大政策等について話し合った。ペレグリニ首相は、「アルバニア及び北マケドニアのEU加盟交渉開始が延期されたことについて、非常に失望している。スロバキアは、EUとバルカン地域の安定に寄与することになる拡大政策を支持している。EU拡大政策は、EUの信頼にも関わる問題である」と述べた。

◆チャプトヴァー大統領の即位の礼出席、安倍総理との会談

【大統領府プレスリリース２１日付，２２日付】

２１日、チャプトヴァー大統領は、東京の赤坂迎賓館において、安倍総理と会談を行った。

２２日、チャプトヴァー大統領は東京において、徳仁天皇陛下即位の礼に参列するとともに、皇居宮殿で行われた饗宴の儀に出席した。チャプトヴァー大統領は、スロバキアを代表して新天皇陛下に祝意を述べるとともに、饗宴の儀に出席した他の国家元首とともに歓談した。

【21日付プラウダ紙電子版】

21日、チャプトヴァー大統領は、「安倍総理と会談を行い、非常に良好な二国間関係を評価した。来年、両国は外交関係樹立100周年を迎えるため、日本の皇族のスロバキア訪問を招請した」と述べた。

チャプトヴァー大統領と安倍総理は、二国間関係、経済協力、環境保護のための課題及びイノベーションについて話し合った。チャプトヴァー大統領は、「我々は、気候変動についても話し合った。日本もカーボン・ニュートラルにコミットしている」と述べた。

チャプトヴァー大統領は、藤沢サステイナブル・スマートタウンを視察した。同プロジェクトは、神奈川県と民間セクターのイニシアチブにより実現したものであり、スマートグリッドで結ばれたソーラーパネル付の住宅1000棟が建設された。

◆ライチャーク外務・欧州問題相の訪米（22日）

22日、ライチャーク外相は、米ワシントンD. C. において、ポンペオ米務長官と会談を行った。双方は、ウクライナ紛争、西バルカン諸国の統合プロセスについて話し合うとともに、ロンドンでNATO首脳会合が行われることを踏まえ、北大西洋協力の現状を評価した。また双方は、シリアにおけるトルコの軍事行動が、中近東地域に与える影響について話し合うとともに、中国との関係についても議論を行った。

双方は、スロバキア米国関係に関し、経済協力、テロ対策、イノベーション、デジタル経済、教育及び科学技術分野における更なる関係強化に関心を示した。

ライチャーク外相は、スロバキアのOSCE議長国としての活動を紹介するとともに、12月上旬にブラチスラバで行われるOSCE外相理事会について説明した。

経 済

◆ハード・ブレグジットがスロバキア経済に与える影響（10日付 TASR 通信）

Slovenska Sporitelna（当地の大手保険会社）のマクロ経済アナリストであるムホヴァー氏は、メディアに対する会見において、「ハード・ブレグジットのスロバキア経済への影響を予測するのは困難である。英国との貿易による損失は、他のEU諸国との貿易によって、ある程度相殺されると見込まれる。また、欧州委員会の善後策（remedial measures）は、ハード・ブレグジットがもたらしうる最悪の影響を部分的に緩和すると見られる」と述べた。

スロバキア国立銀行は、ハード・ブレグジットになる場合、貿易額の減少等により、スロバキアのGDPは2023年にかけて、0.7~1.1%減少すると推定している。英国は、スロバキアにとって8番目に大きな輸出相手国である。2018年の対英輸出額は35億ユーロであり、輸出額の全体の4.5%を占めていた。

◆国会による最低賃金引き上げの承認（18日付経済新聞）

スロバキア国会は、来年以降の最低賃金引き上げを承認した。これにより、2020年から月額最低賃金は520ユーロから580ユーロに引き上げられる。2021年以降は、政府、雇用者組合、労働組合の3者間による最低賃金額を巡る交渉で合意に達することができない場合、平均賃金の60%が最低賃金として定められる。これによると、2021年の最低賃金は、612ユーロになると見込まれている。

スロバキアは、EU加盟国の中で、平均賃金と比較した最低賃金が最も高い国の一つになる。F. A. ハイエク財団のレグリ氏は、最低賃金を平均賃金の60%に固定することに否定的な見方を示し、「経済成長に伴い平均賃金が上昇する場合、企業にとって大きな負担となり、引いては雇用率の減少につながる」と指摘した。雇用者側は、最低賃金を平均賃金と連動させるのではなく、労働生産性と連動させるよう求めている。

スロバキア国会は、2020年以降の最低年金給付額についても、最低生存費（Subsistence minimum。長期失業者等が最低限の生活を維持するために付与される給付金）の136%から、過去2年間の平均賃金の33%に変更する旨承認した。これにより、平均的なスロバキア人が受け取る最低年金額（月額）が、279ユーロから334ユーロに引き上げられる。

◆平均賃金の上昇（28日付プラウダ紙）

スロバキアの平均賃金はここ数年で最も急速に上昇している。2019年の名目平均賃金の上昇率は8%以上に達する見込みであり、実質平均賃金の上昇率は5%を超えると見られている。欧州統計局によると、2019年第2四半期のスロバキアの名目平均賃金上昇率は、EUの中でルーマニアとブルガリアに次いで3番目に高かった。

スロバキアでは賃金だけでなく、物価も上昇している。9月の物価は先月比で0.1%、前年同期比で2.9%上昇した。中でも、教育、交通及び医療分野の物価がインフレを後押ししている。9月のスロバキアの物価上昇率（前年同期比）は、EUの中でルーマニアに次ぎ2番目に高かった。

◆中国とスロバキアを結ぶ鉄道貨物輸送の展望（30日付経済新聞）

トルンカ・コシツェ県知事は、香港で行われた「新シルクロード」構想に関する国際会議に出席した。トルンカ知事は、「コシツェ近郊のポチアル（Bociar）の貨物積み替えターミナル『Global Logistic and Industrial Park』建設計画を推進するために、本会議に出席した。中国は、コシツェを欧州の入り口として見なしており、同ターミナルが東スロバキアに建設されることに関心を示している」と述べた。

トルンカ知事は、スロバキア政府が関心を示している広軌鉄道のウィーンへの延伸計画について、「広軌鉄道が延伸されれば、欧州の門としてのコシツェの重要性、ひいてはスロバキアの重要性が低下することになる」と指摘している。交通経済研究所所長のツェンキー氏も、「広軌鉄道延伸計画の経済的なメリットを示すデータは提示されていない。延伸に必要な費用は約80億ユーロと見積もられているが、それだけの費用が用意できるのであれば、老朽化した鉄道インフラの改修に充てるべきである」と主張した。

統計によると、スロバキアを経由する中国の貨物列車は、ウクライナ国境付近のドブラーにある、貨物積み替えターミナル「Terminal kombinovanej dopravy : TKD」においてのみ、貨物の積み替えを行っている。同ターミナルを利用しているCargo Slovakia社のクンツォヴァー氏は、「2018年は、スロバキアと中国を結ぶ100本以上の貨物列車が運行されたが、2019年の運行本数はこれまで4本に留まっている」と述べつつ、「スロバキアを経由する貨物の輸送量を可能な限り増やしていきたい」と述べた。

10月3日、ドゥナイスカー・ストレダ（スロバキア南西部）に、中国・西安発の貨物列車が初めて到着した。物流企業Metrans Dunabia社のキッス氏は、「経済的なメリットが実証されれば、西安→ドブラー→ドゥナイスカー・ストレダ→ブダペスト→ドブラー→廈門を結ぶ貨物列車を毎週運行させたい」と述べた。

（当館注：スロバキアの鉄道路線の軌間は、欧州の大半の国と同様、標準軌であるが、ウクライナ国境から（スロバキア東部の主要都市である）コシツェまでは（ロシアやウクライナと同軌間の）広軌鉄道も敷設されている。また、東スロバキアのウクライナ国境付近では、広軌鉄道用貨物列車から標準軌用貨物列車への、貨物の積み替えが行われている。）

（了）

スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

